

『第 23 回ビデオレンタル店実態調査(2009 年)』について

当協会は 10 月 14 日(水)午前 11 時より、協会会議室において『第 23 回ビデオレンタル店実態調査結果』について記者発表会を開催しました。当日の出席者は、木村康詩統計調査委員会委員長(株)ポニーキャニオン営業本部レンタル営業部長)、後藤健郎理事・事務局長、肥田幹夫管理部長、上田直子管理部次長兼広報課長。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して「調査結果の概要」と「各調査項目の平均値」の表をご報告いたします。

なお、同調査の詳細な結果は『ビデオレンタル店実態調査報告書 2009』として冊子にまとめられ、一般の方にも有料にて頒布しております。

詳細については、広報課上田まで(03-3542-4433)、もしくは協会ホームページ「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以上

<調査結果の概要>

第 23 回ビデオレンタル店実態調査(2009 年)結果について
～ レンタル売上は減少傾向、レンタル料金の低下が目立つ～

調査実施概要

調査対象	(社)日本映像ソフト協会レンタルシステム加盟店のレンタルビデオ店 (ネットレンタル及び自動レンタル機器によるレンタルを除く)
調査時期	2009 年 6 月
調査方法	郵送アンケート方式
調査票送付数	3,976 票
有効回答標本数	766 票 (有効回収率 19.3%)
調査主体	(社)日本映像ソフト協会
集計分析	(株)文化科学研究所
集計機関	(株)ビデオリサーチ

レンタル売上は減少傾向、レンタル料金の低下が目立つ

ビデオレンタルの総売上は06年の494.0万円から07年528.7万円、08年610.3万円と3年連続で増加してきたが、今年度の調査では、前年比91.3%である557万円に減少する結果となった。DVDレンタルに絞ってみると、売上が前年比93.4%の551.2万円でDVDレンタルの調査を開始した2000年以来初めて減少となった。DVDレンタルの売上シェアはおよそ98%と高いため、DVDレンタル売上の減少が総売上減少に大きく影響している。

売上低下の要因としては、レンタル料金の低価格化があるようだ。新作DVDの平均レンタル料金を見ると、当日レンタルがマイナス11円、1泊2日レンタルがマイナス5円、2泊3日レンタルがマイナス16円、1週間レンタルに至ってはマイナス29円とおおきく減額した。総貸出枚数が前年比およそ100%、DVDレンタルのみの貸出枚数でも98.4%と、売上金額ほどの減少はみられないことから、レンタル料金の低下が売上に与えた影響は大きいようだ。

大規模店舗の売上が激しく減少する反面、好況な小中規模店舗

レンタルビデオコーナーの面積規模別にみると、面積100坪以上の大規模店舗においてのみ、平均売上金額や総貸出枚数が前年割れした。特に売上については総売上で前年比78%・690.5万円、DVDレンタル売上でも80.8%・684.3万円となり、面積規模別に指標を捉え始めた2005年以降において初めてDVDレンタル売上の減少となった。今回の調査結果には、面積規模は100坪以上ながらも比較的売上規模の小さい複数店舗の経営体による回答が影響した部分もあるが、しかしこれらの店舗を除いても売上の前年比は若干高まる程度で、やはり前年の平均売上金額を下回る結果であった。

大規模店の新作DVDのレンタル料金の低化は平均よりもさらに著しく、当日レンタルがマイナス11円、2泊3日レンタルがマイナス23円、1週間レンタルに至ってはマイナス51円もの減額となった。また、大規模店舗では貸出枚数の低下も大きく、総枚本数で前年比82.5%・29,487枚、DVDレンタル枚数が84.4%・29,253枚となっている。新作DVDレンタル料金の思い切った低価格化を試みては見たが、売上向上には今ひとつ結びつかなかったというところであろうか。また、坪効率や在庫回転率の経営効率の面でも大規模店より中規模店のほうが上回ることとなった。DVD、VHS、ブルーレイの売上金額構成比、貸出数量構成比、在庫数量構成比は、中規模店と大規模店でほとんど変わらない。

大型店に対比するようにレンタル実績を伸ばしたのが面積40坪未満の小規模店舗である。前年の調査分析では、苦しい状況に置かれていた小規模店であったが、淘汰の結果と見るべきか、本年調査に回答を寄せた小規模店の平均においては各指標において前年を大きく上回る結果となった。売上では総売上で前年比119%・187.5万円、DVDレンタル売上で前年比118%・182.1万円と好調である。また貸出枚本数でも総貸出で130.4%・6,314枚本、DVD貸出枚数で120.7%・6,114枚と増加した。小規模店においても新作DVDのレンタル料金は低価格化傾向であるが、旧作の1泊2日、2泊3日料金で平均を30円以上増加させている。

仕入枚数増加率が仕入金額増加率を大きく上回り売上高原価率が低下

レンタル DVD の月平均仕入金額が前年比 87.6% の 245.1 万円に落ち込んだが、仕入枚数としては前年比 119.7%・815 枚と上昇している。この傾向は店舗規模別に見ても、各層で仕入枚数の増加率が仕入金額の増加率を上回る結果となっているが、大規模店舗では、仕入金額を前年比 68.9% に対し仕入枚数は 126.8% と最も顕著となった。レンタル向け DVD ソフトの卸値の低価格化に加えレベニューシェアリングシステムの浸透が、特に大型店に影響を与えた結果と考えられる。これにより大規模店舗の売上高原価率(売上金額における仕入金額の割合)は、平均売上金額が下がったにもかかわらず前年の 49.8% から 42.5% と下げることとなっている。

このように仕入枚数は上昇傾向ではあるが、店舗の在庫に関しては増加の勢いも一段落のようだ。在庫整備にタイムラグがあった小規模店では、前年比 129.6% とやや高い増加率となったが、在庫整備が先行した大規模店舗になるほどその増加率は低く、大規模店舗では前年比 107.5% にとどまった。今後のブルーレイディスクの在庫確保への準備もあるのか、大型店を中心に膨大となったレンタル DVD の在庫整理が始まったのかもしれない。

ブルーレイレンタル参入は増加したが、本格的な運営にはまだ時間が必要か

ブルーレイディスク(以下 BD)のレンタル実施率は前回調査の 25.3% から 68.2% へと 2 倍以上に増加した。店舗規模別では中規模店が 73.6% (前回 24.9%)、大規模店が 89.4% (前回 35.0%) で、中規模以上のレンタル店のおよそ 8 割以上が BD のレンタルを実施しているようだ。レンタル BD の在庫状況では、中規模店が 31 枚 140 枚、大規模店では 35 枚 147 枚といずれも前年の 4 倍以上に増加しているが、貸出枚数が 2 倍程度の増加(中規模 21 56 枚、大規模 32 58 枚)に留まっていることから、現状は商品在庫の充実化が図られている段階のようである。今後の動向に注目したい。

メディア別の売上金額の構成比は、DVD 97.9:VHS 1.5:BD 0.7、在庫数量の構成比では、DVD 89.2:VHS 10.4:BD 0.4 だった。

以上